第３回尾鷲市総合計画審議部会　質疑応答一覧（参考）

第５部会　健全で次世代に繋ぐまちを創る

	No.	質疑・意見	発言者	回答・対応方針
広域連携	1	「スケールメリットを活かした」とあるが、実際のところ尾鷲市単独でやるよりも他自治体との連携を進めた方が良いという認識か。	奥村委員	事業の内容によるところがありますが、特に東紀州全体の中での連携強化は必要であると思います。 【市長公室】
	2	「目指す姿の達成状況を測る主な指標」の満足度についての記載において、スケールメリットの記載があるのはどうなのか。市民の満足度というよりスケールメリットがあるのは市の行政運営側ではないか。	奥村委員	結果的には他の市町などいろいろなところと連携して事業をする方がメリットになり、逆に連携が市民にとって特にメリットがないと感じるならば、無理に推進していく必要はないと考えます。満足度はその指標と考えます。 【市長公室】
	3	具体的な記載を計画内でする必要はないが、スケールメリットを活かすことについて、市民に理解が得られるような周知を進めてほしい。	奥村委員	意見のみ。
	4	尾鷲⇔紀北はバスでの行き来が可能。南の方（熊野、御浜、紀南）への交通手段はJRしかない。紀南病院などと連携を進めるなら、そこへのフォローが必要ではないのか。	奥村委員	仰るとおりであるものの、市外への運行についてはまずは交通事業者が担ってほしいところ。ふれあいバスとしても市内を運行する中で、デマンド等の手法を検討していきたいと考えます。【市長公室】
	5	水平補完と垂直補完が需要であり、中でも垂直補完について、これまでも議論しているがこの地域で果たすべき県の役割を少しでも記載するべきではないか。具体的に県・国とどう連携していくのか、一歩踏み込んだ記載をしてもいいように思う。目出しだけでもするべきではないか。	岩崎委員	「◆現状と課題」の部分に、「県を含め」「県と協議しながら」といった記載を追記します。【市長公室】 →「今後、他の分野について、県とも協議しながら、近隣市町やその他の行政機関と広域連携のスケールメリットを十分発揮できる事業について検討を続けていくことが必要です。」と訂正し、部会内で承認されました。
協働・平等	1	空き家対策はどの部署がどのように対応するのか	岩崎委員	第２部会の「生活環境」に入れるかどうかを次の全体会で諮ります。【市長公室】
	2	空き家対策について、第５部会から外すのはここで諮って、第２部会に入れるかどうかは、また全体的な議論となるのか。	奥村委員	専門的な意見を持った部会において議論された内容を全体会で諮る際に、そこの修正についても伺っていきたい。その後も議会（委員会）への説明、パブリックコメント等の手続きを踏まえて、再度内容に修正がかかることがあります。【市長公室】
	3	全体会を経て議会に諮るという流れか。	奥村委員	お見込みのとおりです。その議会（委員会）への説明後、パブリックコメントを経て最終案を再度全体会で最後に諮ります。最終的に審議会からの答申をいただき、正式な計画となります。 【市長公室】
全体	1	テクノロジーの発展である程度の問題は解決することが考えられるが時間はかかる。例えば無人タクシーを導入すれば、ドライバー不足は解決しないか。日本ではまだ実用化していないが、実証実験等の場として尾鷲を使用するみたいに働きかけはできないのか。	村瀬委員	現時点では何とも言えませんが、各集落内での運用であれば、できる可能があるかもしれません。【市長公室】